



発行元  
社会福祉法人創樹会  
広島県福山市水呑町7187番地1  
TEL (084)956-0255  
FAX (084)956-5749

今年度からは総合支援法の一部改正と新たな報酬改定に伴い、新たにチャレンジする場面も想定されますが、特に急がれる高齢者グループホームの増設を目指し、地域貢献事業も「何が必要なのか」「何ができるのか」を検証し、人材確保や専門職育成に若い力と感性を集め次代に向けた準備を進めます。「このサービスがうれしかった」「この人たちと出会ってうれしい」と言われる「嬉しいサービス」を創意工夫し実践したいと思えます。

さて、創樹会には「強歩訓練」という一大行事があり、「はじめまし展」「創樹祭」と並び三大行事の一つとされています。創設当時の福山六方学園は、中・軽度の知的障がいのある子どもたちが中心で、「素直で、明るく通いやすい」を園訓に、家庭に住み、農作業や養豚、養鶏、セメントレンガ造り、簡単な読み書き・算数や作陶などに勤しみながら知力と体力の増進をめざしていました。特に、知的な障がいのある子どもたちは幼いころから動きが少なく、下半身が弱く、注意力が散漫で意欲も少ないと言われ、いかに意欲を持たせるかが課題でした。この頃の家庭舎の暖房は火鉢と豆炭あんかと豆炭炬燵。子どもたちは湯たんぽを足元に眠る日々を送り、朝の乾布摩擦や天つき体操・櫓漕ぎ運動などで健康増進を図りながら、「歩け歩け」が大切にされていました。そんな中生まれたのが「強歩遠足」「耐寒強歩訓練」。一年間の「歩け歩け」と冬場の「耐寒強歩訓練」の締めくくりとして、笠岡方面への遠距離歩行に挑

### 「やったー」飛びつけば届く

今年も園庭の桜が満開になり、九人の新たな仲間を迎えることが出来ました。人材難といわれるこの時期に新しい顔がそろったことに感慨を覚えています。

戦じたのが初めてで、二度目、三度目は山陽路を一泊三日で広島平和公園十六方学園までの百三十kmを、四度目は呉街道を迂回して三泊四日で歩きとおす大きな行事となりました。勿論全員が広島行に挑戦はできませんから、それぞれの力にあった「飛びつけば届く」(少し背伸びをすれば届く)距離にゴールが定められました。

その目的は、「体を動かすことから意欲を高め」、「意思の発動性」「意思の持続性」「意思の被影響性」の強化を願う、「即物、即時、即場面」的設定で、意欲を湧き立たせる。ただし、「言葉は自立性を失わせる」「やったー」という体験が次の意欲を産み、新しい領域を自分に取り込み、自信に繋がっていく。「やったー」との気持ちを育てるためには、「便利」で素通りした「不便」を加味しイベントは環境の変化のあるところを選び、お迎えはせずに自力で歩きとおす。そこには「強い人間関係」と「共感」が生まれるとの信念から、意欲を高め、第一の心臓と言われる足の筋肉増強を図ろうと「耐寒強歩」がスタートしたのです。

その基本は「飛びつけば届く」「目標づくりで、「強歩遠足」から「耐寒強歩」「強歩訓練」と名を変えながら現在に至っています。今では、「一日強歩」五十m〜三十km、「一泊強歩」最長六十kmをそれぞれ「飛びつけば届く」距離を目標に十一月から翌年の二月までを強歩月間としながら、健康を育む大切な行事の一つとして受け継がれています。近年は、六十kmを歩ける人たちがやスタップが少なくなりましたが、一人でも歩きとおせる人がいれば実施していますし、一日強歩には全員が参加しそれぞれの「やったー」が生まれています。

今年度も様々な「飛びつけば届く」を原点に「やったー」に向けたチャレンジを続けます。皆様の変わりぬく支援とご鞭撻を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

二〇一八(平成三十)年四月一日  
社会福祉法人創樹会  
理事長 西山堅太郎

## 鞆の津ミュージアム

12月より開催していた自主企画展「世界の集め方」は、3月4日をもって無事に終了しました。様々に蒐集されたものを通じて、本当はそこにあるのに「ない」ことになっているかもしれないものについて考えるきっかけをつくる。

これが本企画展趣旨のひとつでしたが、来館者からは「身のまわりにあるけれど、普通なら放っておかれるようなものに向けられた作家の様々な視線や感じ方が集められていておもしろい」などの感想もあり、展示はおおむね肯定的に鑑賞いただけたのではないかと思います。

また、3月16~31日にかけては「第15回 はじめまし展」を開催。いつものように、学園のみなさんがつくられた様々な表現をご紹介します。

さらに今年度は日本財団助成のもと、これまで福山六方学園の暮らしの中で生み出された様々な作品を調査・記録し、インターネットで公開するデジタルアーカイブ事業を現在進行中。作品のご紹介を通じて、それぞれ固有で多様な生き方や感じ方があることを知るきっかけとなるようなwebサイトをつくりたいと思いますので、みなさまご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。



## 宿泊強歩

2月17、18日に宿泊強歩がありました。天候にも恵まれ、無事全員で53km完歩することができました。1日目は学園からスタートし、草戸稲荷神社、東部子ども家庭センター、神村コミュニティセンターを經由し、昼食は松永の天霧でかつ丼とうどんを食べました。昼食後は尾道東公園を經由し尾道市役所が1日目のゴールでした。夜は尾道ロイヤルホテルに泊まり、各々次の日に疲れが残らないようにしっかりとストレッチをしたり、テレビを見たりしてゆっくり過ごしました。各休憩ポイントでは多くの利用者の方が応援に来てくださり、挫けそうな時も応援に励まされました。尾道の橋を渡っている際、強風に見舞われペースが遅くなったり、1日目を歩ききり熱が出た利用者や、最後の5kmで体力的にも精神的にもしんどくなり、その場から動けなくなる利用者もいましたが、多くの人のサポートもあり、無事全員でゴールすることができました。利用者の方、強歩に携わってくださったみなさん本当にお疲れ様でした。



社会福祉法人創樹会 (<http://soujukai-fukuroku.or.jp>) ☎ [fukuyamaroppou@soujukai-fukuroku.or.jp](mailto:fukuyamaroppou@soujukai-fukuroku.or.jp))

事業所一覧  
 福山六方学園(障害児入所施設)(障害児短期入所事業)  
 あゆみ苑成人寮(障害者支援施設)(生活介護事業)(就労移行支援事業)(短期入所事業)(日中一時支援事業)  
 サポートセンターひびきの家(共同生活援助事業)  
 サポートセンター友の家(共同生活援助事業)  
 さわらび(生活介護事業)(日中一時支援事業)  
 ヘルパーステーションあしすと(居宅介護・行動援助事業)(移動支援事業)  
 ONE-すてっぷ(児童発達支援事業)(放課後等デイサービス)(日中一時支援事業)(障がい児療育等支援事業)  
 ふぁんたす(放課後等デイサービス)  
 相談支援センター風ぐるま(一般相談支援事業)(特定相談支援事業)(障がい児相談支援事業)  
 さくら(就労継続支援B型事業)(生活介護事業)

## あとがき

4月に入り一気に暖かくなり、過ごしやすくなりました。今年度も広報誌「創樹」では法人での取り組みや、様々な行事などを紹介していきますので、よろしくお願い致します。

(編集スタッフ一同)



新年度「挨拶」各施設管理者よりご挨拶申し上げます。今年度もよろしくお願ひ致します。



福山六方学園 施設長 佐藤 秀信

十八歳を超えた人たちの在り所延期に関するみなし規定が三年間延長となり、当法人のグループホーム建設も一年間延期することになりました。加えて最近の雇用情勢の厳しさを職員確保が心配されるようになり、グループホーム建設に暗雲が立ち込めるような空気がです。が児童施設としては何となくも成人した人たちの暮らしの場を確保することを、今年度の最大目標としたいところです。

「子どもたちに関する課題達成を目標にする」とありますが、今年度は、年齢の取組みを最後の年と考え、まず彼らの日中活動の充実に向けた取り組みに力を入れます。昨年実施している「きぼう舎での個別支援」を確実に実施し、新しい体制の中で活用していただ

るモデルとして引き続きたいける内容にしていきたいと思っております。そしてもう一点は、次年度以降の児童入所施設の在り方について考える一年になるということです。子供の数そのものが少なくなっている現状で、施設入所を必要とする子どもたちも少なくないです。そんな中で在宅支援という観点からみると「短期入所・日中一時支援」の取組みを重要事項として捉えていくことが大切だと思えます。私ごとながら、認知症の母の介護においても同様に、短期入所を有効的に利用したいと思いつつ、まだまだマイナスイメージで捉えられがちでつい遠慮がちになってしまっています。いつだったかテレビで『ホテルに泊まりに行くような感覚で利用して下さい』と言われていました。子どもたちにとっても、家にいることが難しいからではなく、『学園の生活も楽しいから行ってみたい』と言われるような生活の場をめざしていきたいです。



あゆみ苑成人寮 施設長 林 幸和

あゆみ苑成人寮は、生活と日中活動を一体的に支援している事業所です。入所支援・生活介護・就労移行支援・短期入所・日中一時の五つの事業を行っています。今回は、今更にあまり紹介ができていなかった、就労移行事業と短期入所事業を紹介いたします。

就労移行支援事業では文字通り働く機会の提供を通じ、就職や職場定着に向けた支援を行っています。現在、利用されている皆さんは地域から通っておられます。利用期間が有期限(二年間)である本事業では、常に新規利用者を獲得しなければならぬという課題があり、六人の定員を満たすことは難しい状況にあります。当事業所は「ミニケース」や大きな集団が苦手な方への就労に向かう支援を多く行ってきたという特色と実績があります。きびしい状況は続きますが、今後も一般就労を前提に就労を支援する姿勢と次の進路につ

なっていく姿勢は継続していきたいと考えています。

短期入所事業は、ショートステイとも呼ばれ短期に入所される方に生活に関する支援を行っています。最近では利用される方が増え、特に男性は定員がほしいの日に続き利用を希望されてもやむを得ずお断りすることもあります。ご利用される方の障がい特性は多様であり、日常的に支援を行っているという点も、もろもろの難しさを感ずることがあります。このような状況に対応するため、スタッフ間で情報を共有させることや支援力の向上に努めています。先日、利用されている方のご家族から丁寧なる感謝の言葉をいただきました。ご家族の入院に際し初めての短期入所を利用されました。ご自分の病気や初めての利用への不安など複雑な思いがあつたのがご利用だったと思います。私たちは福祉に携わる者としてやるべきことをしている訳ですが、このようなお言葉をいただく責任の重さを感じることがあります。こちらこそ「ありがとうございます」と伝えたいです。



サポートセンター 友の家 管理者 佐藤 敏英

平成三〇年四月より、障害福祉サービス等報酬改定により、グループホームの基本的な報酬が下がり、非常にきびしい状況になっております。しかし利用されている皆さんは、今まで通り安心して暮らしを必要としています。

新住居になって、コーポ洗谷(ホームあさぎ・ホーム林檎)が出来て二年、コーポ葦(ホームさくら・ホームかつらぎ)・コーポサンス(ホームあしだ・ホーム城陽A・プレアデス(ホームたから・ホームかわせみ)が出来て一年半、みどりコーポ(ホームひこやま・ホーム榎)が出来て一年になりました。また、前年度の事業計画にしていたホーム彦山寮とホーム城陽Bにやつとスプリングクライ設備が整い、ほっとしたところです。

きながら、より楽しい地域生活を支援していきたいと思っております。まず皆さんの日々の暮らしの中で、支援が必要となる「気づく」ことが一番です。社会人の一人としてプライドを持ち、お互いが自分らしい生活スタイルを実践してほしいと思います。次に「実践する」です。一人一人の障害特性にあった関わりを持ち、押しつけない、納得する支援を目指していければと思います。最後に「継続すること」です。一時的なものではなく継続した支援をする様進めていきたいと思います。



さわらび

管理者 細羽 正樹



春たけなわの季節となりましたが、皆様にはますますご健勝のことと存じます。

昨年の一月に、新しい建物に移転し、一年三カ月余りが無事に過ぎました。利用者・ご家族の皆様他、関係者の皆様には大変感謝申し上げます。さわらびは今年度も生活介護事業(定員四十名)、日中一時支援事業(定員五十名)のふたつの事業を行っています。

四月からは国から示されています障害福祉サービス等報酬改定の内容に沿って事業を行っていくこととなります。改定率一〇・四七%とはいうものの、この事業もなかなか厳しいのが現状です。生活介護事業においても各種見直しが行われ、報酬単価の変更も行われます。一点、廃止必至と言われていた食事提供体制加算が関係者の皆様の努力もあり、とりあえず継続になったことは大変喜ばしいことです。

みとしては、①相談事業所、特別支援学校等にお知らせをし、事業所のことを広く知ってもらう、②当事業所で提供している「生活介護事業」の内容(活動等)の見直しをする、③利用者の意思決定の体験の機会を多く提供し、④働き方改革の推進、⑤チーム組織力の強化の五点です。意思決定支援、合理的配慮の充実が利用者の権利擁護に繋がることが当然のごとく言われていますが、果たして実際に細やかな配慮がされているだろうかかと考えた場合、もつと自信が持てないのが現実です。知的な障がいのある方だけでなく、様々な障がいのある方が利用されている中、「良かれと思つて」していることが、支援者主導の「大きなお世話」になってはいないだろうか。日々、振り返る必要があるように思っています。



例年になく寒い冬がようやく過ぎ、暖かい日差しが心地よい季節になりました。ご家族の皆様や関係者の方々に支えられ、サポートセンターひびきの家も三年目を迎えることができました。当事業所は福山市水呑町で、グループホームを運営しています。(定員：男子十一名、女子七名)二十代から六十代までの方が地域の中で少人数での共同生活をされています。介護サービス包括型のグループホームで、各ホームには夜間も職員を配置し、緊急時にも対応できるようにしています。

サポートセンター ひびきの家

管理者 片岡 志保美



生活をされている方の中には視覚障がい、聴覚障がい、車イスを利用されている方、歩行器が使われている方など、お一人お一人、様子が違います。生活のお手伝いの内容も、お一人ずつ違います。その方がもたれている力を大事にしながら健康で安全な暮らしができるよう、お手伝いをしています。今年度は①個別支援に重点をおいていきたいと思つています。個々の障がい特性を再確認し、それぞれの個性を尊重しながら利用される方の「楽しい生活」を支え、同時に生活の中でできることをひとつでも増やしていきたいと考えています。②意思決定の支援をスタッフの共通認識として取り組

みたいと思つています。利用されている方の中には、自分から外に向けて思いや考えを発信することが難しい方がおられます。それぞれの思いを推測したりその方の思いに寄り添おうとしたり、日々の生活の中で見られる表情の変化に気づくこと、少しでも意思決定の支援に繋がるようにしていきます。利用者の平均年齢は四十五歳です。三月末現在、年齢が見られてきています。変化を見逃さず早めの受診を行い、医療機関や学園看護師と連携を取りながら支援を行い、「ご家族・関係者の方と一緒に皆さんの今や先のことを考えていきたいと思つています。特別支援学校等にお知らせをし、事業所のことを広く知ってもらう、②当事業所で提供している「生活介護事業」の内容(活動等)の見直しをする、③利用者の意思決定の体験の機会を多く提供し、④働き方改革の推進、⑤チーム組織力の強化の五点です。意思決定支援、合理的配慮の充実が利用者の権利擁護に繋がることが当然のごとく言われていますが、果たして実際に細やかな配慮がされているだろうかかと考えた場合、もつと自信が持てないのが現実です。知的な障がいのある方だけでなく、様々な障がいのある方が利用されている中、「良かれと思つて」していることが、支援者主導の「大きなお世話」になってはいないだろうか。日々、振り返る必要があるように思っています。

ヘルパーステーション あしすと

管理者 黒田 将義



暖かい季節になり、行動支援や移動支援で外出をする私たちにとって

はイベントも多く、景色を眺めるだけでも癒され、外出支援には最適な季節になりました。私たちの支援は、気温や天気に左右され、準備に頭を悩ませることがしばしばあります。そんな中、季節や天候に左右されない支援スポットとして、福山市内には多くの室内プールがあります。朝から夕方まで休館日以外ほぼ毎日支援で利用しています。利用回数に比例して「顔なじみ」が増え、挨拶から始まり言葉や交わり、お世話を焼いて下さる方もいらっしゃいます。健康管理や運動の為に利用する事の多いプールですが、障がいの有無に関係なく、お互いに笑顔で触れ合い、励まし合う様子は利用される方にとって良い社交の場になっているように感じます。

ヘルパーは外出前、いろいろ準備をして支援に入ります。家や施設の中と違い、他者と関わるため、配慮が必要なのはもちろんですが、利用される方とヘルパーだけでは解決できない事があれば、他者もつまく巻き込んで一緒に手伝ってもらえるように働きかけることもあります。他者と関わることで室内プールと同様に顔なじみが増えていけば、外出への不安を和らげるのではないかと考えています。家族と離れて余暇を過ごす時間を、利用される方にとっていつもと違う特別な時間になってほしいと思つています。障がいのある方が暮らしやすい生活が送れるように私たちはお手伝いさせていきます。





桜の花が咲き誇り、一年で最も華やかな季節がやってきました。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。新年度を迎えるにあたり法人事務局の重要項目を述べさせていただきます。

まず初めに、全職員が障害者虐待防止法や障害者差別解消法についての理解を深める研修や日頃の支援の中で、問題意識を持ち利用される方々と接する事ができるよう相談窓口との連携を図り、人権侵害ゼロを目指します。そのためにも職員の心身の健康維持をきき、健康診断やストレスチェックの結果に応じた受診などを組織的に配慮するとともに腰痛防止やメンタルヘルス対策を図り、穏やかに利用される方々の支援が出来る取り組みを行います。

「目」は一年前に発生しました福山の豪雨で、法人でもこれまでなかった場所からの土石流で、登園道が二カ所寸断され車両が通行できなくなることがありました。町内の皆さんと法人職員とで石や泥の除去を行い、何とか当日には車が通行できるように



管理者 猪原 義久

日増しに春めいてきてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて平成二十年度は障害福祉サービス報酬単価の改定により、就労系サービスについては大変厳しい時代がやってきました。内容については、「定員規模別に設定を加え平均工賃月額に同じ報酬設定とする」「工賃が高いほど自立した地域生活に繋がる事や、生産活動の支援に労力を要すると考えられる事から高い報酬設定としメリハリをつける」となっています。しかし、厚労省が掲げているB型事業の概要には「通常の事業所に雇用される事が困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労及び生産活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う」とあります。本来の目的は、成果を上げる事が目的でなく、支援をする事が重要なサービスとなつていきます。さくらにおいても、利用されている皆さんの重度・高齢化が進み、障がいも多様化しています。雇用される事が

なりませんが、想定外の災害が突然起きることを思い知らされました。災害時、職員はどのように行動し、地域の方と連携を取っていく事ができるか等の検討を行い、利用される方と職員の命を守ることを優先に考えた「マニュアルの変更を行いたい」と思います。

次に、全職員の業務負担軽減です。IT機器を活用した書類作成等を推進していきます。民間企業等ではAIを導入されていますが、まずはタブレットや現在あるソフトを活用して、報告書や事務手続きの簡素化に努めていきたいと思っております。そして、近い将来のAI導入に向けた準備に入りたいと思っております。

最後に二〇二一年には会計監査人設置に向けた体制作りです。それに向けて内部監査体制の確立と会計取扱の統一を図り、会計監査人を設置してもスムーズに業務が遂行できるルール作りを行う一年にしていきたいと思っております。

この一年も大小含め、多岐にわたって進めて行かなくてはならないものがあります。障がいのある人たちの人生を支える「嬉しいサービス」提供事業体として、法人運営のついで、法人事務局が潤滑油として機能するようにしたいと思いますので、よろしくお願い致します。



**車両寄贈のお知らせ**

「この度「広島県共同募金会」様より「平成十九年度NHK歳末たすけあい助成金」を受け、「トヨタハイエース」ミニバン十四人乗りがやってきました。「さくら」の送迎で使用させていただきます。

新しい車輛のおかげで、利用される皆さんの送迎等が安心、安全に行えるようになりました。

ありがとうございました。

**ありがとうございました (2018.1.1~2018.3.31)**

\*お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。(敬称略・順不同)

\*保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

**ご寄贈・ボランティア訪問**

ボランティア  
 ・神楽 (2/12) 名、宿泊強歩 (2/17・18) 家族会役員 1名  
 ご寄贈  
 ・福山六方学園家族会 ・関係者 3名  
 ・アートマネジメントしまなみ ・株式会社ミウラ  
 ・匿名1名

**実習生・交流**

実習生 保育士		
2月13日~10日間	中国学園大学	3名
2月26日~10日間	広島文化学園短期大学	2名
3月 5日~10日間	福山平成大学	1名
3月11日~10日間	広島文化学園大学	4名
3月22日~ 8日間	広島文教女子大学	3名

**今後の予定**

**全体**  
 4月29日...創樹祭  
 6月 3日...東部地区親善球技大会

**あゆみ苑成人寮**  
 5月...観劇 大久野島

**児童園**  
 5月...節分  
 7月...ひなまつり

**サポートセンター友の家**  
 4月...GH交流会 ふうりんの集い(花見)  
 5月...GH交流会 ふうりんの集い(グラウンドゴルフ大会)  
 6月...GH交流会 ふうりんの集い 親善球技大会

「ONE-すてっぷ」は、日曜・祝日を含む学校休業日に長時間の受け入れをしている部門と児童デイサービスから移行した小集団と個別療育を中心とした部門に分かれていました。定員二十名の中で一階と二階に部屋を分けて受け入れていましたが、場所の狭さであったり、職員が兼務していたり、分かり難さがあったことも事実です。

「ONE-すてっぷ」は、今年一月より、定員十名の放課後等デイサービス「ふあんたす」が開所しました。これまでの「ONE-すてっぷ」に加えて二つの放課後等デイサービス事業となり、放課後等デイサービス事業ですが、まだまだ事業所として応えきれない利用ニーズや療育支援内容の充実のため、どうしても必要としていた事業所でした。

「ONE-すてっぷ」は、日曜・祝日を含む学校休業日に長時間の受け入れをしている部門と児童デイサービスから移行した小集団と個別療育を中心とした部門に分かれていました。定員二十名の中で一階と二階に部屋を分けて受け入れていましたが、場所の狭さであったり、職員が兼務していたり、分かり難さがあったことも事実です。



事務局 事務局長 田中 創

「ONE-すてっぷ」は、今年一月より、定員十名の放課後等デイサービス「ふあんたす」が開所しました。これまでの「ONE-すてっぷ」に加えて二つの放課後等デイサービス事業となり、放課後等デイサービス事業ですが、まだまだ事業所として応えきれない利用ニーズや療育支援内容の充実のため、どうしても必要としていた事業所でした。

「ONE-すてっぷ」は、日曜・祝日を含む学校休業日に長時間の受け入れをしている部門と児童デイサービスから移行した小集団と個別療育を中心とした部門に分かれていました。定員二十名の中で一階と二階に部屋を分けて受け入れていましたが、場所の狭さであったり、職員が兼務していたり、分かり難さがあったことも事実です。



ONE-すてっぷ 管理者 石井 融三

児童発達支援と放課後等デイサービス及び日中一時支援、障害児療育支援事業の四事業を実施しています。

今年一月より、定員十名の放課後等デイサービス「ふあんたす」が開所しました。これまでの「ONE-すてっぷ」に加えて二つの放課後等デイサービス事業となり、放課後等デイサービス事業ですが、まだまだ事業所として応えきれない利用ニーズや療育支援内容の充実のため、どうしても必要としていた事業所でした。

「ONE-すてっぷ」は、日曜・祝日を含む学校休業日に長時間の受け入れをしている部門と児童デイサービスから移行した小集団と個別療育を中心とした部門に分かれていました。定員二十名の中で一階と二階に部屋を分けて受け入れていましたが、場所の狭さであったり、職員が兼務していたり、分かり難さがあったことも事実です。

利職員が兼務していたり、分かり難さがあったことも事実です。利用される方にも完全に事業所を分けた方が良いとの判断でした。「ONE-すてっぷ」の一階を利用していた児童が、そのまま「ふあんたす」に移動した形ではありますが、四月からは新一年生も加わり人数も増えています。

「ONE-すてっぷ」は、引き続き定員二十名で受け入れをしていき、活動や支援内容をさらに改善していきたいと思っております。児童発達支援「すてっぷ」は、定員十名で就学前の幼児さんが、3クラスに分かれて通っています。小集団での療育活動を中心に、楽しい活動を通して発達支援をしていきます。日中一時支援「あさか」の子どもたちは、主に児童発達支援センターを降園後に来所します。幼児さんとスタッフが楽しい遊びを一緒にしながら共感的に向き合っていきます。

今年も、卒園・卒業していく子どもたちを見送りながら、新たに迎えていく児童を迎えています。一人ひとりの子どもたちに向き合い、日々の療育や余暇支援の活動を充実させていきます。本年度もどうぞよろしくお願い致します。



相談支援センター 風ぐるま 管理者 藤井 祥普

春風が心地よい今日この頃、みなさまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。相談支援センター風ぐるまでは、担当させて頂いているみなさまのサービス利用を始め、日々の生活相談支援を今年度も微力ながら行なっていきたいと思っております。

平成三十年度は各種障害福祉サービスの見直しと報酬改定が行われることになっており、サービスの新設や報酬改定による提供サービス、利用料の見直しが行われています。主には重い障がいを持つ方への適切なサービス提供や地域生活の支援、就労継続・定着の促進、長期入院をされている方の地域移行、障がい児支援の体制づくりと質の向上などが目標としてうたわれています。今後、福山市での障がい福祉の状況(新しい事業所の開所など)も変化が出てくると思われるため情報をキャ

ツチしながら計画相談としてお手伝い出来るようにしていきたいと感じています。相談事業としては平成三十年度、平成三十一年度にかけてモーターリング時期の見直しが行われることになっており、平成三十一年度から短期入所など特定のサービスを利用されている方のモーターリング期間がサービス更新に伴い三か月になる事が提示されています。計画相談として契約して頂いている方には詳細が分かり次第、ご説明をさせていただきます。

また、昨年は就労継続支援A型事業所の倒産があり、高等部卒業後の進路などを決める時に不安を感じられることも大きいのではないかと思います。現在、特別支援学校では進路決定に伴う移行支援会議も丁寧に開いて頂いているので、ご家庭や学校と連携を取りながら風ぐるまとしても早めに連絡を取り合っていくと考えていく様になっています。

特定相談事業所として制度上の変化は起こってきていますが、みなさまの思いや生活への希望に寄り添う相談事業を行っていきたくと思っています。

今後ともよろしくお願いたします。



# 2018年度 新人スタッフ紹介



## 福山六方学園

いとが ゆうた  
**糸賀 祐太**

福山平成大学から来ました糸賀です。今年から福山六方学園の児童園でお世話になります。自分は在学中、児童に関わるバイトをしていたので、その経験と学校で習った福祉の心で利用者さん達をサポートしていきたいです。



## さくら

ふくまん ともみ  
**福万 友美**

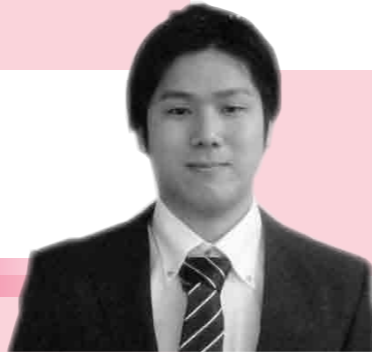
利用されている皆さんと一緒に楽しく作業や活動を通して、日々学び成長していきたいと思ひます。分からない事ばかりでご迷惑をおかけするかと思ひますが、精一杯がんばりますので、どうぞよろしくお願い致します。



## あゆみ苑成人寮

もりみつ はやと  
**守光 隼人**

今年からあゆみ苑でお世話になる守光です。趣味は釣りと音楽を聴くのが好きです。これから大学で勉強してきた事を活かせるよう、少しでも早く職務を覚え、先輩方を目標に頑張っていきます。



## さくら

かわにし ひろふみ  
**川西 浩史**

この度3月26日からB型事業所「さくら」にてお世話になっております。

前職はA型事業所で、軽作業及びパンの製造・販売の指導員として勤務しておりました。

さくらでは、利用者様が働きやすい職場になるよう、精進して参りたいと思ひます。



## サポートセンター友の家

ひだ あつし  
**肥田 篤司**

趣味は学生時代からやっているバスケットで、体を動かすことが好きです。分からないことばかりですが、明るく思いやりのある支援を心がけて、一生懸命頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願いします。



## あゆみ苑成人寮

しばた しょうや  
**柴田 翔也**

2018年4月からあゆみ苑成人寮でお世話になります柴田翔也と申します。不慣れな点もありますが、迷惑を掛けないよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

## 神楽



二月十一日(月)曜日、あゆみ苑の多目的室にて、備後荒神楽田尻保存会の皆様から、神楽を披露していただきました。今年一年があゆみ苑の皆さんにとって良い年になるよう、心のこもった舞を披露していただきました。豪華な衣装を着て、迫力のある舞と、あゆみ苑の名前を交えたわかりやすいストーリーを語っていただきました。利用者さんたちは、天狗や鬼といったいろいろな役者さんが次々に出てきて、迫真の舞を目の前で大興奮！また役者さんたちは、とても優しく「ユニークな方々で、「このものじゃー」「田尻のものじゃー」等と利用者さんと掛け合いをしてくださり、笑い声あり驚きありの、にぎやかで楽しい雰囲気でした。利用者さんたちにとって、一年の始まりにふさわしい、とても良い思い出になりました。備後荒神楽田尻保存会の皆さん、ありがとうございました。

## 菅野先生園内研修



三月二十七日、菅野敦先生をお招きしての園内研修会が行われました。前半は、女子棟・さくらの事例発表。各業所での取組みについて発表し、菅野先生に助言を頂きました。信頼関係は、日頃からのコミュニケーションの積み重ねが大切である事を改めて感じました。後半は、今年度二回目、前回の続きでテーマは「ダウン症について」の講演。聴講者に問いかける形式で進められ、一緒に考えながら学ぶことができました。スタッフ一人一人が、障がいに対する知識の幅を広げ、利用者さんにとってより良い生活が送れるよう支援を考えていけたらと思ひます。



スタッフのつぶやきリレー tuburoku-box。仕事のこと、プライベートetc... boxをあけてみましょう！

### ☆はじめに...

みなさん初めまして児童園に所属している竹口真樹です。あゆみ苑成人寮の山下さんからバトンを受け取りました。創樹会に就職して6年経ちました。最初にあゆみ苑成人寮に所属し4年目の7月から児童園に配属となりました！

### ☆プライベート

趣味がなく飽きっぽい性格のためか、長続きできる趣味がありませんでした。しかし、最近ハマっている趣味ができました。広島県と言えば「**広島東洋カープ**」ですがもう一つの広島県スポーツと言えば「**サンフレッチェ広島**」です！去年の5月頃からスタジアムに観戦に行くようになりました。初めて現地で試合を見て、監督・選手がチームワーク・戦術を大事に目の前の試合にチーム一丸(**ICHIGAN**)となって勝利を目指していました。それからサッカーの魅力にハマってしまい、今では年間パスポートを買って勤務の都合があれば試合観戦に必ず行き、1人のサポーターとして声を出して応援しています。

今のプライベート目標は「サンフレッチェ広島ホーム試合を全部観に行く！」ことです！！

### ☆終わりに...

気付けば5年目が終わりかけようとしています。本当に一年あっという間で時間の流れる早さについていけないです。今日は今しか来ない。次いつ来るの分からない。

今という時間を大事に使ってこれまでに得た経験を仕事に生かしていけたらと思う日々です。

